

科目名		授業形態	担当教員名	
運動障害性構音障害 I (基礎)		講義	熊倉 勇美	
時間数 (単位数)		授業回数	年次	開講時期
30 時間 (1 単位)		15 回	1 年次	後期
授業の目的・概要				
<p>発語の仕組みを「呼吸・発声・構音・共鳴・プロソディ」と分けて考える。 次に、ビデオ画像を提示し、実際の運動障害性構音障害のある発話ケースを見て問題点を考えていく。さらに鑑別診断と6つのタイプ分類を学ぶ。 その後に評価・訓練法を解説し、具体的な訓練法について学習する。</p>				
授業の到達目標				
<p>運動障害性構音障害の検査と手続きができる。 治療理論を説明できる。 障害の評価に応じて、訓練目標や訓練計画をイメージできる。</p>				
授業計画				
回	内容			
1	発話のしくみ			
2	運動障害性構音障害とは			
3	発症の原因と頻度			
4	患者や家族の訴え、リハビリテーションの流れ			
5	発話の問題を鑑別、評価するポイント			
6	検査法の考え方とその方法			
7	検査法の歴史			
8	検査法 (AMSD)			
9	検査法 (SLTA-ST)			
10	6分類と発話特徴 (1) 痙性構音障害、弛緩性構音障害、失調性構音障害			
11	6分類と発話特徴 (2) 運動亢進性構音障害、運動低下性構音障害、混合性構音障害			
12	発話訓練のプランニングと進め方			
13	発話訓練の具体的な方法			
14	補綴治療			
15	まとめと解説			
成績の評価法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験	100%	当該障害の鑑別診断、検査、訓練を行うための基本的な知識を評価基準とする。		
レポート				
小テスト				
平常点				
その他				
自由記載		必要な文献コピー、講義 (パワーポイント) 資料を配布する。		
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
改訂・運動障害性構音障害	熊倉勇美		建帛社	
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
自由記載				
備考				
当該障害の鑑別診断、評価、訓練のプランニング、実施が出来るよう積極的に学んでほしい。				